

## 四年計画

1995年12月26日

大陸顧問団カンファレンスへ

今期任命された大陸顧問は、四年計画に関して次のようなことに直接関与する：

- 1) 計画の中心点
- 2) 計画の肉付けをどのような過程で行うか、またその過程で大陸顧問団がどのような役割を演じるか？
- 3) 顧問団の機能のあり方とその展開
- 4) 全国、地域、地方レベルでの計画作り
- 5) 信者の訓練や人材開発のための研修機関の重要性
- 6) これらの研修機関の設立と運営に大陸顧問と顧問補佐は緊密にかかわる
- 7) 地方精神行政会の設立と強化、および地方共同体発展のための効果的方法
- 8) 限られた財的資源を、バハイ共同体が直面する様々な課題にどう配分するか

1996年レズワンに、バハイ世界は、地球規模の大事業に乗り出す

その中心的課題は： 隊をなす集団加入の過程を飛躍的に進展させること

この目標は、以下の三つの要素がその活動と発展において著しい進歩を遂げることによって達成される：

- ①個々の信者      ②機構      ③各バハイ共同体

- \* これからの四年間、個人が率先して行う効果的なティーチング活動は劇的な盛り上がりを見せなければならない
- \* 何千何万もの信者が、自己の信仰の活力を以下の方法で表現するよう支援される
  - ①布教を継続して広める
  - ②バハイ機構の立てた計画と、自分の属す共同体の活動を支援する
- \* 各人が次のことを認識できるように援助する
  - その人の内なる生活と個人の性質のあらゆる側面に「バハオラによって打ち立てられた永遠の原則の輝きを...反映する」ことの重要性
- \* 個人によるティーチングを加速するため、地域や地区レベルの布教計画を数を増やすこと。これについて機構は次の点を必要とする：
  - ①バハイの原則に沿って協議する能力を伸ばす
  - ②共通のビジョンをもって友らを統合する

- ③自分たちの有する能力を大業への奉仕に活かす
- ④新しい入信者を受け入れ、融合させる
- \* 信教を受け入れた人たちは次のような地方共同体に迎えられるなければならない
  - ①活気に満ちた共同体
  - ②愛と寛容のある共同体
  - ③強い目的意識と集団意志によって導かれた共同体

### 計画作りの過程

1. より詳しい情報はレズワン・メッセージで示される
  2. 各国の状況にそって計画を調整できるように、必要に応じて万国正義院から別個のメッセージも用意される
  3. レズワン後すぐに各国で、機構および活発なバハイとの間で会議をもち、二、三か月間で国レベルの計画を作る。
  4. 計画の詳細に関する大陸顧問と全国精神行政会間の協議が終わるとすぐに、実践が始められる
  5. これらの計画に対する世界本部の承認は不要。ただし、コピーは送るべき
- \* 六年計画と三年計画における七つの骨子は、四年計画においても継続される
  - \* 国レベルの計画は単なる目標の羅列でなく、実施方法の分析や実地の行動計画などを含むこと—友らが明確なビジョンのもとに断固とした行動をとることができる

### 大陸間レベル

- \* 顧問団は、四年計画で極めて重要な責任を果たす大きな可能性を持つ
- \* この時期、バハイ共同体の内外でものごとが急速に進展するため、顧問団の機能の柔軟性が大いに生かされる
- \* 大陸顧問の任務は数人の顧問が協議と多様性あるアプローチが有効  
 [例えば] ①全精会を激励する時 ②社会の多様な階層への布教を促進する時  
 ③バハイ共同体の異なった構成分子と相談する時など
- \* 各大陸顧問団は、大陸顧問たちの持つ様々な才能が行政会と共同体のために最も適した方法で生かさるよう、いろいろ工夫すべきである
- \* 大陸顧問団の全メンバーが、管轄区内のすべての国の大業の状態に精通するよう努力すべきである。

### 全国および地域レベル

- \* 全国レベルの計画の大きな項目が明確にされたら、企画の過程はただちに地域レベルに下ろされる。
- \* 計画には次のようなことが含まれるべきである：
  - ①個人ティーチング促進のための準備

- ②様々な種類のキャンペーンの開始
- ③いくつかのカンファレンスの開催
- ④地区および地域のプロジェクトを設定する
- ⑤地区共同体の強化
- ⑥布教旅行者の移動
- ⑦特に大々的な拡大が見られる地区で、文献や視聴覚資料の広範囲な分配
- ⑧人材開発

\* 研修

- 集団で加入してくる新しい信者たちのディープニングのため、施設を確保する
- 彼らを、能力に応じて、大業に奉仕できる人材として養成するため、機構は組織立った研修を持つこと。
  - ・・・今まで行っていたものに比べ、より系統的、継続的、大規模である。
- [今まで行っていたもの・・・週末研修、五日間研修、九日間研修など]
- 大規模な人材養成のためには新しい考えに基づいた研修を持つ必要がある :
  - 組織的訓練のために献身する専門機関が必要
- これらの訓練の目的は、大量の信者に対して精神的洞察力や知識や、強化と拡大に必要な技術を与えることにある。
  - ・・・このためには、良く考慮されたカリキュラムによるコースで組織された、正式なプログラムが必要。
- 訓練のための研修機関は、国全体あるいは一部における人材開発に荷担する。
- 研修は、何人かの献身的な信者による明確なプログラムと、定期的な訓練過程で構成されることもあるし、教師陣とフル・タイムのスタッフをもつこともある。
- 研修用の建物の有無にかかわらず、教師は各地でコースを行うべきである。
- 実りある研修機関設立のため、その運営に顧問と顧問補佐を積極的に巻き込む。
- 大陸顧問補佐は信者の教育に大いに責任があるため、研修機関の運営には緊密にかかわるべきである。
- 大陸顧問たちと全国精神行政会は、行政秩序の二つの腕の協力法について次の点を詳細に協議すべきである：
  - ①研修の予算と機能の監査      ②プログラムやカリキュラム作成      ③コースの実施
- 研修機関の役員を決定する時は、全精会は大陸顧問と協議し、大陸顧問の十分な支持のもとに行う。顧問補佐も役員として活動することができる。
- 研修機関は顧問補佐、地精会、および布教・強化に携わるその他の委員会と親密な協力関係をもつことにより、それらの計画に貢献する個人を育成する。
- 行政機関が、研修で訓練された人材をすぐに上手く使うことができなくても、研修は定期的に続けるべきである。
- 地域の研修機関の強化は、熟練し、確固とした信教の支持者の力に依存する。
- 研修機関は、プログラムの開発において新しい信者たちの才能を引き出したり、世界的規模の資源との組織的な結びつきを有効に活用したりすべきである。
- できたばかりの研修機関は、他の国で開発された資料を翻訳して利用するだろうが

そのうち自分たちの状況にあった独自の資料を開発できるようになる。

- 研修機関運営のため布教センター基金に特別の項目が開設された。各全精会は状況に応じて、自国の研修機関開発に注意を向けるよう奨励される。
- 研修機関の飛躍的進展は、四年計画の際立った特徴の一つである。

### 地方レベル

- \* 地方共同体の発展と、地精会の機能の向上は世界的な課題である。
- \* 基礎的機能を果たしている行政会が、近隣の機能していない共同体の強化と布教の世話をするという項目を、全国、地域レベルの計画に含むべきである。
- \* 地方レベルの計画は、隊をなす集団加入の促進に貢献するものであること。
- \* 計画作りと実施の両面で、行政会と顧問補佐およびそのアシスタントが一緒になって働くべきである。
- \* 行政会はバハイのためだけでなく、都市や町全体のために神の恩寵の水路としての任務を意識しなければならない。
- \* 地精会の有無に関係なく、組織的な活動がないところでは、顧問補佐とアシスタントの役割が大きい。彼らの役割の中には以下のようなものがある：
  - ①バハオラとその大業に対する愛が深まるよう、各信者を助ける
  - ②19日毎のフィーストに個々の信者が参加し易いよう、連れていく
  - ③信者たちが、共同体メンバーとしての意識を強めることを目的として、企画された様々な集まりに、連れていく
  - ④婦人の参加が少ない共同体では、彼女らの参加を促進する対策をもつ
  - ⑤地精会が毎年適正に選挙され、着実に成長していくよう、効果的な手段を講じる
  - ⑥バハイ子供クラスの定期的開催の重要性……共同体建設過程の最初の活動
  - ⑦ユース活動の重要性……信教の最も熱心な支持者
- \* 顧問補佐は、一つの共同体に複数のアシスタントを任命し、それぞれ特定の課題を課すこともできる。
- \* 系統立った共同体発展のため、またそれぞれの特有の状況に応じた方法を見いだすための各地の活発なバハイとの話し合いで、過去の経験から学んだことを活かす。成功点と問題点を反省することにより、方法を工夫、学習し、前進する。
- \* 保護の顧問補佐は：
  - ①友らのディープニング
  - ②地精会の適正な機能にかかわる

### 地方精神行政会の選挙

- \* 1997年レスワンから、地精会選挙は必ず、レスワン第一日目に、地元の友らの手で行えるように準備をすすめる。